

都市再生整備計画 事後評価シート
宇部市役所周辺地区

令和8年3月

山口県宇部市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山口県		市町村名	宇部市		地区名	宇部市役所周辺地区			面積	50ha		
交付期間	令和2年度～令和6年度		事後評価実施時期	令和7年度		交付対象事業費	2,088	国費率	0.5				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(市道栄町線)、地域生活基盤施設(新庁舎広場、真締川公園)、高質空間形成施設(国道190号(常盤通り)、県道宇部港線、市道東本町寺町線、市道栄町線、市道常盤通り宇部新川駅線)、高次都市施設(新庁舎2期棟(市民活動交流スペース))										
		提案事業	-										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	-		-			-					
	新たに追加した事業	基幹事業	高質空間形成施設(公衆便所)(国道190号(常盤通り))、高次都市施設(宇部市常盤通りにぎわい交流拠点施設)		高質空間形成施設(公衆便所)(国道190号(常盤通り)):バリアフリー化を促進するため 高次都市施設(宇部市常盤通りにぎわい交流拠点施設):中心市街地に「子育て支援・教育施設」の充実が求められているため			高質空間形成施設(公衆便所)(国道190号(常盤通り)):指標2の数値目標を上方修正 高次都市施設(宇部市常盤通りにぎわい交流拠点施設):指標4を追加					
		提案事業	まちづくり活動推進事業(オープンカフェ等社会実験)(国道190号(常盤通り))、事業活用調査(立地適正化計画変更業務)		社会実験:整備による効果や課題の検証を行うため、オープンカフェ等の社会実験を追加する。 立地適正化計画変更業務:見直し時期を迎えるため			社会実験:指標2の数値目標を上方修正 立地適正化計画変更業務:影響なし					
交付期間の変更	当初	令和2年度～令和6年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-						
	変更	-		-			-						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	新庁舎2期棟(市民活動交流スペース)の利用者数	人	30	H30	400	R6		440	○	あり	新庁舎2期棟及び新庁舎広場と真締川公園の一部の整備により、イベント時のみならず学生から大人まで多世代の利用があった。	-
											なし		
	指標2	イベントの開催回数	回	17	H30	25	R6		29	○	あり	新庁舎広場と真締川公園の一部及び常盤通り(市役所前)との一体的なウォークアブル化の整備により、様々な用途に活用出来る空間が生まれ、市役所周辺のイベントの回数が増加したと考えられる。	-
										なし			
指標3	市役所周辺の歩行空間の快適性に対する満足度	%	40	R1	45	R6		58	○	あり	市役所周辺の道路の再整備により、安全性・利便性の向上や環境・設備の充実が図られ、歩行空間の快適性に対する満足度が向上したと考えられる。	-	
										なし			
指標4	休日の歩行者通行量	人/日	799	R2	1,200	R6		401	×	あり	当初常盤通り(旧井筒屋前)の工事は、本計画期間内で完成する予定であったが、工事の遅れにより次期計画で行う事となったため、歩行者通行量が増加しなかったと考えられる。 従前は既存建物(旧山口井筒屋宇部店)を活用し「常盤町1丁目スマイルマーケット」を営業中であり、歩行者通行量に来店者が含まれていたが、現状は既存建物を解体し、「にぎわい交流拠点施設」を建設中であるため歩行者通行量が減少したと考えられる。	-	
										なし	● 常盤通りの工事が完成し「にぎわい交流拠点施設(ときわスクエア)」オープン予定の令和9年6月以降に目標値の達成が見込まれる。		

3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指 標		単 位	従前値		目 標 値		数 値		目 標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	その他の 数値指標1	その他の 数値指標2		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	—	—	—	—	/	/	—	/	/	—	—	—	—
	—	—	—	—	/	/	—	/	/	—	—	—	—
	—	—	—	—	/	/	—	/	/	—	—	—	—
4)定性的な効果 発現状況	事業着手前は、市役所周辺に若者の姿がほとんど見られなかったが、事業の実施により学生など若者の姿が多く見られるようになった。												
5)実施過程の評価			実施内容			実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング		—			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—			
	官民連携による 取組		・市民ワークショップ(宇部市常盤通りにぎわい交流拠点施設) ・にぎわい創出検討部会(常盤通りのウォークアブル化)			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ・市民の意見を実施設計へ反映するとともに、イベントなど市民が参加 するまちづくりに努める。(宇部市常盤通りにぎわい交流拠点施設) ・検討結果を実施設計に反映し、整備を行う。(常盤通りのウォークアブル 化)			
	持続的なまちづくり 体制の構築		常盤通りのウォークアブル化に向けた社会実験			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 社会実験の結果を実施設計と整備後の管理運営体制に反映する。			

様式2-2 地区の概要

宇部市役所周辺地区(山口県宇部市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 市役所本庁舎建替と合わせた周辺の整備による快適でにぎわいのある中心市街地の創出 目標① 新庁舎広場と真綿川公園の一体的な整備および新庁舎2期棟(市民活動交流スペース)の整備による憩いと交流の場の創出 目標② 緑と花と彫刻のまち「ガーデンシティうべ」を活かした「人中心の空間」の整備による「居心地がよく歩きたくなるまちなか」の創出 目標③ 閉店した大型百貨店跡地の利活用と市役所周辺の道路再整備による快適な歩行空間の形成	新庁舎2期棟(市民活動交流スペース)の利用者数	単位:人	30	H30	400	R6	440	R7	
	イベントの開催回数	単位:回	17	H30	28	R6	29	R7	
	市役所周辺の歩行空間の快適性に対する満足度	単位:%	40	R1	45	R6	58	R7	
	休日の歩行者通行量	単位:人/日	799	R2	1,200	R6	401	R7	
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎2期棟及び新庁舎広場と真綿川公園の一部の整備により、学生から大人まで多世代の利用があり、交流促進が図られている。 ・新庁舎広場と真綿川公園の一部及び常盤通り(市役所前)との一体的なウォークアブル化の整備により、様々な用途に利活用出来る空間が生まれ、多くのイベントが開催されるとともに居心地がよく歩きたくなるまちなかの創出が図られている。 								
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・整備した施設については、まちづくり会社等と連携し、情報発信の強化やイベントの開催を進めるとともに、エアプラットフォームの構築により未来ビジョンを策定し、官民一体となったエアマネジメントを推進する。 ・ときわスクエアやウォークアブル化の整備により、新庁舎2期棟及びときわスクエアを中心とした常盤通り周辺の回遊性を高め、「居心地がよく歩きたくなる」まちなかを形成し、エリア価値の向上や新たな人流の創出を図ることで、民間投資を促進する。 ・未完成の事業【宇部市常盤通りにぎわい交流拠点施設、国道190号(常盤通り)等】について、次期計画で実施し、早急な供用開始を目指す。 ・次期計画で新たに実施する琴芝街区公園及び周辺道路の再整備との相乗効果を生み出し、ウォークアブル化を促進するとともに、更なる賑わいを創出する。 								